

## 令和3年度離島漁業再生支援交付金による取組概要（大島）

## 1. 集落協定の概要

都道府県名：大分県

市町村名：佐伯市

島名：大島

協定締結集落名：大島漁業集落

交付金額：4,348千円

（1）基本交付金：4,348千円

（2）新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：27世帯、46人（うち漁業世帯27世帯、46人）

都道府県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当たりの平均勤め先収入（直近3年平均）3,591,106円

集落の平均漁業者所得 478,123円（令和2年）

## 2. 協定締結の経緯

佐伯市大島周辺の海域は、典型的なリアス式海岸であり多数の天然礁を有する佐伯湾、天然礁回遊魚の漁場を多く有する豊後水道に面しており、良好な自然環境に恵まれている。地元漁業者は主に一本釣漁業を営んでおり、マダイ、イサキ、ブリ類を主な魚種として漁獲している。大島周辺の浅場は、水産資源の幼稚仔の育成場としても重要な役目を担っている。これまで、地元漁業者がこれらの海域環境を適切に管理することにより、これを保全するとともに周辺水域の有効利用を図ってきた。

しかしながら、漁業が基幹産業である佐伯市大島地区においても、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、このまま放置すれば、大島地区の漁業は一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も低下する可能性がある。

このため、大島地区は、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する集落での話し合いを通じて集落機能を再編し、必要な場合には既存の慣行を見直し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組める環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施する必要があることから、その取組の継続を下支えするために離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

### 3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組の実施

○種苗放流により資源の維持、増大を図った。

活動内容	放流数	サイズ (mm)	経費 (円)
種苗放流			
イサキ	50,000尾	67.16	1,780,000
		計	1,780,000

○サメ駆除等の活動を行い、漁場の維持・管理を行った。

活動内容	実施日	数量	経費 (円)
漁場の維持・管理			
サメ駆除	9月29日		535,000
		計	535,000

○魚礁を設置し、産卵場・育成場の整備を行った。

活動内容	実施日	数量	経費 (円)
産卵場・育成場の整備			
貝殻魚礁効果調査	1月17日		10,000
防水カメラ購入	3月10日	1台	88,110
人工海藻設置	3月25日	8基	594,600
		計	692,710

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

○ハマチの出荷調整及び出荷札の作成を行い、高付加価値化に向けた取組を行った。

活動内容	実施日	数量	経費 (円)
高付加価値化の取組			
ハマチ出荷調整	12月	89本	0
出荷札作成	3月28日	18,000枚	198,000
		計	198,000

○活餌用の畜養生簀を設置し、一本釣漁業の省力化に向けた取組を行った。

活動内容	実施日	数量	経費 (円)
一本釣漁業の 出漁準備の省力化			
蓄養生簀設置	2月21日、3月28日	2基	1,084,388
		計	1,084,388

#### 4. 取組の成果

##### ①種苗放流

種苗放流については、地元漁師が漁獲する主な魚種であるイサキの放流を行った。今後も引き続き実施し、水揚量及び水揚金額の増大を期待したい。



イサキ種苗放流 (R3.9.29)



イサキ種苗放流 (R3.9.29)

##### ②漁場の維持・管理

これまで地元漁師が釣った魚に対して、船上へ釣り上げるまでにサメの食害に遭うことが度々あり、釣ったはずの漁獲物の被害に併せて仕掛け（漁具）損失の被害もあり、売上減少及び経費増大という二重の損失に悩まされてきた。駆除活動実施後は一定の期間サメの食害に遭うことがなくなり、地元漁師も活動の効果を実感しているため、今後も引き続き取り組んでいくこととした。



サメ駆除 (R3.9.29)



餌に使用したヤズ(R3.9.29)

##### ③産卵場・育成場の整備

防水カメラを購入したことで、魚礁等のモニタリングが可能な体制が整備できた。貝殻魚礁の効果調査で海藻類の繁茂が芳しくなかったため、新たに人工海藻を購入し、大島地先に設置したことで、育成場の造成が図られた。



貝殻魚礁効果調査 (R4.1.17)



防水カメラ購入 (R4.3.10)



人工海藻8基購入 (R4.3.28)

